

- 《履修上の留意事項》1．授業資料を配付する場合には、重要ポイントなどをメモとして適切に書き留めること。
 2．毎回授業後に小テストを実施するので、よく授業を聞いて理解すること。
 3．授業終了後復習に際し、授業内容をまとめる習慣を身に付けるように努めること。

《担当者名》教 授／古市 保志 furuichi@ 教 授／入江 一元 irie@ 教 授／細矢 明宏 hosoya@
 教 授／石井 久淑 hisayosh@ 教 授／遠藤 一彦 endo@ 教 授／谷村 明彦 tanimura@
 教 授／安彦 善裕 yoshi-ab@ 教 授／荒川 俊哉 arakawa@ 教 授／永野 恵司 knagano@
 准教授／佐藤 圭史 keiji_sato@ 講 師／磯部 太一 tisobe@
 学 長／浅香 正博
 客員教授／有末 眞

【概 要】

歯学概論（基礎編）では、歯科医師として身に付けなければならない知識を修得するうえで、専門基礎科目がどのようなものであるか、また、その体系化した知識が歯科医学においてどのような位置を占めるかを学び、臨床科目との関連性について理解する。

【学修目標】

本学部で修得する専門基礎科目の歯科医学における位置付けが説明でき、さらに、自らの到達目標を構築する。

歯学概論序説 歯学の位置付けとその歴史的裏付け、歯科医療職としての使命と社会的意義を説明する。

医療人間学演習 患者と医療従事者との関係性について説明する。

国際関係論 医療従事者として国際的観点に立つことの意義と重要性を説明する。

医療倫理学 医療に関する倫理的・社会的問題について説明する。

解剖学・口腔解剖学 解剖学で学ぶことを知るとともに解剖学実習を成り立たせている献体について説明する。

組織学・発生学 細胞や組織の構造が機能と結びついていることを説明する。

生理学・口腔生理学 顎・顔面・口腔領域の感覚、運動及び自律機能の特徴とそれらの調節系について説明する。

生化学・口腔生化学 生体分子の営み（生化学反応）を説明する。

微生物学・口腔微生物学 微生物がう蝕や歯周病など多くの口腔疾患に関わっていることを説明する。

歯科理工学 歯科の治療に使用されている代表的な材料や器械について説明する。

薬理学・歯科薬理学 歯科医師が用いる薬物、及び知っておくべき薬物について説明する。

病理学・口腔病理学 全身疾患や口腔に生じる疾患の成り立ちや機序について説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	歯学概論序説	● 本学歯学部での歯科医学教育を理解する。	古市 保志
2	歯学概論講演	● 歯科医学に関する講演	浅香 正博
3) 4	歯学史 1～2	● 歯学史 1～2：歯学の歴史について概説できる。	有末 眞
5	医療倫理学	● 医療に関する倫理的・社会的問題の概要について理解する。	磯部 太一
6	医療人間学演習	● 医療現場における患者と歯科医師との関係性について理解する。	磯部 太一
7	解剖学・口腔解剖学	● 解剖学の歴史を学ぶことで医療における解剖学の重要性を知る。 ● 人体解剖学実習の概要と意義を知る。 ● 献体について理解を深める。	入江 一元
8	組織学・発生学	● 人体を構成する組織および口腔組織の構造を学ぶ意義を理解する。	細矢 明宏
9	国際関係論	● 医療従事者として国際的観点に立つことの意義と重要性を理解する。	佐藤 圭史
10	生理学・口腔生理学	● 顎・顔面・口腔領域の感覚、運動及び自律機能の特徴とそれらの調節系について理解する。	石井 久淑

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
11	生化学・口腔生化学	● 人体の構造と機能、細胞の構造を支える生体分子の営み（生化学反応）を理解する。 ● 生体分子の構造と機能を理解する。 ● 生体分子の理解が、病気の治療や臓器再生につながることを理解する。	荒川 俊哉
12	微生物学・口腔微生物学	● 微生物がう蝕や歯周病など多くの口腔疾患に関わっていることを学び、微生物学の重要性を理解する。	永野 恵司
13	歯科理工学	● 歯科の治療に使用される材料と器機の種類と特性について学ぶ。	遠藤 一彦
14	薬理学・歯科薬理学	● 薬物の作用機序や副作用を学ぶ意義を理解する。 ● 薬物の作用機序や副作用に関係する生体機能や生体分子について理解する。	谷村 明彦
15	病理学・口腔病理学	● 全身疾患や口腔に生じる病気の原因、発生機序など病気の本体について理解する。	安彦 善裕

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験（100％）

- ・ 授業内容について授業終了時に実施する小テストにより評価する。

【学修の準備】

解剖学・口腔解剖学

予習（30分）解剖学の歴史と献体について調べる。

復習（30分）解剖学の学修を通して、医の倫理について再考する。

【ディプロマ・ポリシーと当該授業科目の関連】

DP1. 人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するための基礎知識を学修する（専門的実践能力）。

DP2. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーションの基本能力を身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる基本能力を身につける（自己研鑽力）。

DP4. 多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために必要な基本知識を学修する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5. 歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な基本知識を学修する（社会的貢献）。

【実務経験】

斎藤 隆史（歯科医師）、入江 一元（歯科医師）、細矢 明宏（歯科医師）、石井 久淑（歯科医師）、浅香 正博（医師）、有末 眞（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

医師、歯科医師としての実務経験を活かし、幅広い歯科医療の展開の基盤となる基礎歯科医学を学修し、目指すべき歯科医師像の構築に寄与する教育を行っている。